



▼森の中での撮影で、周辺にハブがいないか確認し、現われた場合に備えてのレクチャーをする



▲AD役の常田社長が日傘をハブ除けの棒にくくりつけ、余計な木漏れ日が俳優に当たらないようカットする

奄美には固有の稀少植物が多いが、撮影には特別な配慮がある。放送された映像もとで盗掘されることがあるからだ。特別なガイドを同行し、



ロケグループからの要望に応え、神秘的な滝に案内。ここでも奄美テレビのスタッフはハブ除けの棒を持ち、ロケが支障なく進行しているか見守る

専務の山元さんも「よくクライアントから『これするといくら?』と聞かれますが、大事な金は金額交渉ではなく、どんな映像を求めているか把握することで、しっかりと

積み上げと奄美の良さを全国に知らせたいという強い意志で、ロケーションサービスは、これからますます進化していくにちがいない。



にしても長靴を用意したり、嘸まされた場合に備え、毒を抜く器具を用意したりする。移動時は常に先頭を歩き、ハブの脅威の矢面に立ち、長い棒を持参して山中を歩く際や撮影中も気を配りハブ払いを行う。夏場は想像を超える暑さなので、ミネラルウォーターをたくさん持って行き、スタッフに頻りに飲ませる。水分不足で1人でも倒れてしまったらスケジュールはストップしてしまふ。

いよう長靴を用意したり、嘸まされた場合に備え、毒を抜く器具を用意したりする。移動時は常に先頭を歩き、ハブの脅威の矢面に立ち、長い棒を持参して山中を歩く際や撮影中も気を配りハブ払いを行う。夏場は想像を超える暑さなので、ミネラルウォーターをたくさん持って行き、スタッフに頻りに飲ませる。水分不足で1人でも倒れてしまったらスケジュールはストップしてしまふ。



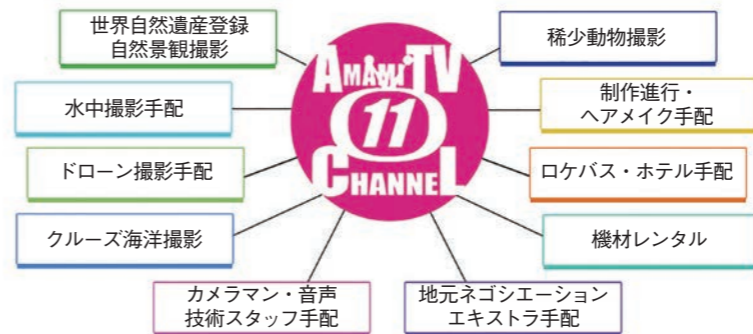
◀空撮の要望があるとドローン撮影が得意の映像作家の坂元秀行さんが同行



映像作家 坂元秀行さん

▲坂元さんがドローンで撮影した奄美の景観  
◀「時には木々の間を飛ばして撮影するような難易度の高い注文もありますので、どんな場所でも対応できるよう普段からいろいろな場所でドローン空撮の練習をしています」

## アマミテレビの1ストップサービス



# 奄美でロケなら何でもお任せを! アマミテレビロケーションサービス

奄美テレビ放送(株) (鹿児島)



【編集委員・水野重満】

以前からロケの相談度々  
それなら、いっそ事業化を

パソコンの検索で「奄美」「テレビロケ」と入力すると「奄美テレビ」「アマミテレビロケーションサービス」の項目が上位に並ぶ。その下には「アマミテレビは奄美の映像制作総合パートナー。雄大な自然や稀少動物の撮影はもちろん、ドローン、海洋、水中撮影など、映画からテレビ番組まで様々なロケ・リクエストをサポートします」との記述が出る。

奄美テレビ放送(以下、奄美テレビ)は昨年9月、ホームページにロケサポートのページをアップした。テレビキ局や企業CM、カラオケ映像、映画制作などで注文があり、ふさわしい場所の紹介や

ロケーションサービスのホームページ担当  
報道・制作部マーケティングチーム  
木村まり子さん



「ロケをする人が奄美テレビを知らなくても、相談先を検索しようと「奄美」「自然」「ロケ」「収録」などの単語を入力すると、うちのサイトが上位に現われ、まず「奄美群島の撮影のことならお任せください」というフレーズが目飛び込むよう工夫しました」

撮影場所が絶対に特定されないようなアングルで撮り、スタッフには絶対に他言しない約束をしてもらう。

「利益のためではない  
観光産業を活性にするため」

奄美の気象条件は過酷だ。大気には湿気や塩分が異常に多く、撮影機材が誤作動したり電源がやられたりする。天気が急変し突然雨に襲われることも多い。そのため撮影機材のカバーは必携だし、雨具やテントの用意も必要。予備バッテリーのほかに発電機や充電器も持って行く二重三重のバックアップ体制をとる。

局にない資材を使わなければならぬ要望もある。例えば高い場所から撮影するためには鉄パイプなどを組み立てた足場が必要と言われれば、建

案内、撮影サポートなどを行ってきている。

ホームページで宣伝する以前にも、「ケーブル局なら島内のことは詳しいはず」と、ロケの相談を受け、案内などをしたことが何度かあり、撮影後に非常に喜ばれるので、社長の常田圭一さんは「それだったら、本格的にサポート体制を整え、PRしよう」と、昨春秋に事業化を決めた。

ただ、これに携わるには、どこにどんな撮影ポイントがあるかの知識、島の歴史や文化芸能などに詳しい人とのつながりを持つておくことが必要。さらにロケ中の不測の事態に迅速に対応できることも必要で、社内の誰でもができる仕事ではない。そこで、それらを十分にこなせる社長の

代表取締役社長  
常田圭一さん



「奄美を案内できる人は各分野にいろいろいますが、撮影に特化して最適な場所や季節、時間まで知っている私たちが案内した方がいい映像が撮れるので喜んでくれます」

海中での撮影を依頼されることもしばしば。水中でも撮影可能な小型で高性能のビデオカメラを購入し、撮影はダイビングショップの人に応援を頼む



設業者から資材を借りて組み立てる。CM撮影で海岸を走る車のシーンを撮りたいと言われ、砂浜にゴムシートを長く敷いて、その上を走らせたこともある。

こうまでしての事業化について、常田社長は「利益のためというより、奄美の素晴らしさが全国に放送され、観光客の増加などにつながることを期待して」と話す。そのためにインスタ映えならぬ「アミ映え」する映像を撮ってほしいのだ。

専務の山元さんも「よくクライアントから『これするといくら?』と聞かれますが、大事な金は金額交渉ではなく、どんな映像を求めているか把握することで、しっかりと

島民撮影の古い映像を  
文化的価値ある資産に

話し合っています」と話す。



専務取締役  
山元勝己さん

ホームページでは「奄美群島の政財界人・文化人にパイプをもち、奄美の様々な情報をインプットしていることで島の『理論派親分』的存在として知られている」と紹介されている

奄美テレビでは今、島の人たちが昔に撮ったVHS映像のカビ除去とDVD化のサービスを行っている。また自局のアナログ時代の古い映像もデジタル化しアーカイブとして活用しようとしている。いずれも、奄美の文化的価値がある映像を見つけ資産として残そうという狙いで、アーカイブサービスでの使用も視野に入れている。

ケーブル局としての経験の積み上げと奄美の良さを全国に知らせたいという強い意志で、ロケーションサービスは、これからますます進化していくにちがいない。